

アオチドリ (ラン科) の北海道分布

千歳市 五十嵐 博

はじめに

アオチドリ (ネムロチドリ) *Dactylorhiza viridis* は「高さが 15-40cm の多年草。葉は 2-4 枚互生し、やや肉厚で長さ 4-10cm の長楕円形。花は総状に多数つき葉状の苞は花よりずっと長い。がく片 3 個が兜状となり側花弁を隠す。唇弁は長さ 1cm ほどで先が 3 裂するが中裂片は微少。個体によって花軸や唇弁が紫褐色をおびるが、図 1 は緑色個体である。漢字では「青千鳥」と書き、開花は 5~7 月。山地の林内や草地に生える。分布は北海道、本州 (中部以北)、四国」となっている (里見 1982、遊川 2015、梅沢 2018)。根室地方では未確認だが道内各地で本種を確認しているので北海道分布を報告する。



図 1 アオチドリ 2021.6.22 佐呂間町

文献調査

以下の () 内の地名は国土地理 2.5 万分の 1 地形図名を示す。

横山(1951)の産地は厚内(厚内)、大津(十勝大津①)である。

原(1979)の産地は白老町(白老)、登別市(登別温泉①)などである。

原(1981)の撮影地は虻田町(虻田)である。

森ら(1987)の産地は温根元(納沙布①)、牧の内(婦羅理)、(落石)、フレシマ(別当賀)、ガツカラ浜(厚床①)の 5 カ所である。

釧路市立博物館(1998)の標本産地は弟子屈(弟子屈)である。

原(1992)の産地は(定山溪)、(清田)、(石狩)、(石山)、(札幌東部)、(余市岳)、(銭函)、(島松山)、(手稲山)、(札幌)、(野幌)、(張碓)などである。

北網圏北見文化センター(1995)の標本産地は北見市川東(北見)、佐呂間町浪速(サロマ湖②)、北見市上仁頃(上仁頃)、北見市北陽(上仁頃)、北見市富里(上仁頃)などである。

北網圏北見文化センター(1997)の標本産地は北見市緑ヶ丘(相内)、遠軽町丸瀬布上武利(上武利)などである。

滝田(2001)は釧路町オビラシケ(遠矢)採集標本で描いている。

合田(2004)の北大標本産地は屈斜路(屈斜路湖)、(釧路)、十勝?、(滝ノ沢岳)、(夕